

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 11 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2011～2014

課題番号：23402047

研究課題名(和文) 英語化における半周辺の新産と権力構造 - 高等教育のマレーシア・モデルの伝播

研究課題名(英文) The Reproduction of Semi-peripheries in the Process of Englishisation and its Power Structures: The Diffusion of the Malaysian Model of Higher Education

研究代表者

吉野 耕作 (Yoshino, Kosaku)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：50192810

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,900,000円

研究成果の概要(和文)：マレーシアで創造されたトランスナショナルな高等教育モデルは、英語化の進展の仕方やそこに内包する権力構造を象徴的に示す現象である。英語化の過程の半周辺に位置づけられるマレーシアの文化的仲介者が創造した制度は、周辺(ベトナム、インドネシア等)さらには中心(英国等の西洋英語圏)においても模倣され、拡大再生産された。英語化のプロセスを説明する上で、周辺(多くは途上国)と中心の接合は分析の要であり、その鍵となるのが、半周辺が編み出した仲介的制度である。本研究では、同制度の伝播およびそれに伴って生じるナショナルおよびグローバルな社会的文脈における権力構造を考察した。

研究成果の概要(英文)：The invention and development of the Malaysian model of transnational higher education symbolises the ways in which the process of Englishisation advances and its accompanying power structures evolve. This model, invented by Malaysian cultural intermediaries in the 'semi-peripheries' in the English-speaking world, diffused widely not merely in 'peripheries' (such as Vietnam and Indonesia) but in the very 'centre' (e.g. UK). This study examines the ways in which this mediating institution deriving from the 'semi-peripheries' connect agents in the 'peripheries' and the 'centre', thereby enhancing the Englishisation of higher education. The study also enquires into power structures in both national and global social contexts that result from the diffusion of the Malaysian model.

研究分野：社会学

キーワード：高等教育 英語 ナショナリズム エスニシティ マレーシア 留学生 トランスナショナル

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の対象は、英語化(英語使用の拡大)のプロセスを理解する上で焦点となる「半周辺」(注\*)で創造、開発された民間の高等教育制度の伝播である。その制度とは、マレーシアにおいて1980年代以降トランスナショナルなネットワークを基盤に成立した新しい形の高等教育の仕組みである。プミトラ優先政策下、ノン・プミの華人やインド系住民は、塾や専門学校(後に民間のカレッジと呼ばれる)を活用して、民間のカレッジにおいて1年または2年学んだ後に提携先の海外の大学に移籍する方式(1+2、2+1)あるいはマレーシアに居ながらにして3+0方式を通して、比較的安価に「西洋・英語国」の学位取得を可能にする仕組みを創造、開発した。

報告者は、平成19~22年度、基盤研究(B)「英語化とアジアにおける社会編成 - マレーシアの民間高等教育産業の展開と波及効果」として、英語を媒介とした高等教育のマレーシア・モデルが形成された背景およびその社会的波及効果を考察した。

英語を媒介とする高等教育のマレーシア・モデルは、英語化の過程の「周辺」(注\*)に位置する中国や他のアジア諸国(その多くはベトナム、インドネシア等の途上国)によって安価に英米流の高等教育を受ける方式として模倣、技術移転されている。非西洋国において内発的に創造された社会経済モデルが他国に技術移転されるのはきわめて珍しい。にもかかわらず、同モデルのグローバルな伝播に関する社会科学研究は、マレーシアを含めて存在しない。これらの観点から見て、本研究は先駆的な試みと位置づけられよう。

さらに興味深いのは、半周辺マレーシアのモデルが、英語化の「中心」(注\*)を構成する英国やオーストラリアにおいても選択的に模倣・採用されている点である。

こうした点に鑑み、次の研究段階として、半周辺の産物である仲介的・接合的な制度群が、周辺および中心において再生産され、それに伴い進行する英語化の過程の中でアジアおよびより広い地域で展開する権力構造の変化の諸様相を調査、分析することとした。(注\*)「中心」は英語を母語とする西洋諸国、「半周辺」は英語を第2言語とする諸国(その多くは旧英植民地)、「周辺」は独自の国民言語を持ち英語が外国語である諸国と、作業上定義する。

### 2. 研究の目的

英語化に関する既存の研究は、主に言語学におけるイデオロギー批判(言語帝国主義)または国際英語の多様性の記述のいずれかに限られていた。また、社会学においては未開拓の分野である。本研究の特徴は、英語を社会編成に影響を与える重要変数としてとらえ、具体的にはマレーシアで創造された高

等教育の伝播がナショナルおよびトランスナショナルな権力構造に与える影響を実証的に考察する点にある。

本研究は、英語化(あるいは、より一般的にグローバル化)に関する既存の文献の限界を以下の点で越えることが期待される。第1に、多くの文献が脱領域化をグローバル化の基本的特徴としてあげていながら、ネットワーク化の主体の領域性を前提にしている。本研究では、従属論や世界システム論で用いられた中心・半周辺・周辺概念を分析概念として再構築した上で、トランスナショナルネットワークにおける社会的権力の源泉を考察する。第2に、グローバル化の社会的担い手を同定した社会学的研究は意外に少ない。本研究は、中心・半周辺・周辺の各々の文脈において英語化を推進する社会的担い手と担い手間の関係の分析を中心に据えて権力構造の変化および固定化を考察する。

### 3. 研究の方法

明らかにしようとした研究内容と方法は、以下の通りである。当事者に対する聞き取りが主な調査研究方法である。

#### (1) 英語化の周辺諸国における高等教育のマレーシア・モデルの伝播の考察

《内容》英語化の周辺に位置する諸国(その多くは開発途上国)において半周辺マレーシア産の制度が模倣あるいは技術移転を通して伝播される過程を明らかにする。受け入れ側の社会経済構造的背景を考察し、主なアクターの動機を理解する。

《方法》マレーシアの民間の高等教育機関の首脳陣と海外市場担当者を対象に技術移転に関する聞き取り。ベトナムの大学への技術移転に関してベトナムの大学上層部への聞き取り。インドネシアにおけるマレーシア系の民間のカレッジへのモデル移転に伴う社会経済的利点と制約に関する経営者への聞き取り。インドネシアの社会構造的背景、特にエスニック関係について専門の研究者に聞き取り。中国における民間の大学におけるマレーシア・モデルの適用に関するキー・プレイヤーへの聞き取り(於マレーシア)。比較事例として、ヨーロッパの周辺に位置する私立大学の英語化戦略とフランスの大学のグローバル化戦略の調査。

#### (2) 英語化の中心諸国における高等教育のマレーシア・モデルの組み込みの考察

《内容》英語化の中心(英や豪)が半周辺マレーシア・モデルを採用する際の市場戦略の理解。中心による半周辺の利用の仕方を明らかにすることにより、英語化の権力の構図を記述・分析する。

《方法》英国における当初の調査計画を変更し、クアラルンプールにおけるイギリスの民間のカレッジの支部キャンパスにおける聞き取り、視察調査を実施。

(3) 英語化市場における文化的仲介者と接合的制度の考察

《内容》アジア諸国(周辺)と西洋英語国(中心)を接合するマレーシア文化的仲介者が創造・開発した諸制度は英語化進展の主要な触媒である。同制度の特徴を明らかにする。

《方法》 インドネシアにおけるマレーシア系留学斡旋業者の活動の参与観察を通して英語圏留学に結びつける制度の実践を記述、考察。マレーシアにおいて活動する周辺国、中心国のエージェントへの聞き取り。

(4) マレーシアにおける文化仲介者役割のエスニックからナショナルへの拡大の考察

《内容》英植民地主義以来、伝統的なミドルマンであった華人の仲介的役割は、グローバル化・英語化の中でプミプトラであるマレー人によって学習される過程の記述と分析を行う。

《方法》 国立大学の首脳陣および文部省のマレー人の公務員・官僚の観察への聞き取り。

民間の高等教育機関におけるマレー人スタッフへの聞き取り。

(5) グローバル化の推進者とナショナリストとの対立の構図の理解

《内容》半周辺における英語を使用言語として英米豪志向の民間の高等教育の普及に伴って生じるグローバルリストとナショナリストの対立と共存の構図を分析する。

《方法》 高等教育省の大臣、政策立案者、マレーシア国民大学上層部への聞き取り。

民間の大学首脳陣への聞き取り。もうひとつのポストコロニアル社会における英語化を比較事例として考察して命題の妥当性を高めるため、香港におけるエリート層への聞き取り。

以上5項目の調査を通して、最終的に英語化をめぐる権力構造の理解を深めて理論構築を行う。すなわち、半周辺における新たな制度群の出現により中心・半周辺・周辺をめぐる権力の流れ・方向性が変化または固定化する過程を見定める。

#### 4. 研究成果

半周辺のマレーシアで創造されたトランスナショナルな高等教育モデルは、グローバル経済の国際分業の中でいかなる役割を演じてきたのであろうか。いくつかの主要なテーマにおける研究成果を以下に記す。

(1) 英語化における「中心」の支配性

高等教育のマレーシア・モデルは、半周辺における仲介的役割を通して、西洋・英語国の高等教育の拡大を促進し、英語化における「中心」の支配性に貢献したとすることができ。

中心・英語国の教育産業に寄与するト

#### ランスナショナルなプログラム

トランスナショナルな高等教育の要はネットワークである。西洋英語圏と非英語圏との間、または先進国と途上国との間にネットワークを築く上で、マレーシアの半周辺性は貴重な資源である。西洋英語国にとっては、従来のような留学生の受け入れによる経済的利益の獲得ではなく、トランスナショナルなネットワークそのものが経済的利益の源である。マレーシアという半周辺における仲介的役割を通して、英語化の裾野が広がった。そして、マレーシアの民間カレッジが創造したトランスナショナルなプログラムは、英米豪などの英語国の高等教育市場における支配性を促進する役割を演じた。

高等教育のグローバル化と中心・英語国の利益

2003年頃にマレーシア政府は、民間の高等教育機関が3+0を行う際、その全学年において、提携先の英豪の大学がフランチャイズする教育プログラムを使用させる方針に転換した。それまでは、第1・2学年の間はマレーシアの機関が自ら作成した教育プログラムの使用が認められていたために、経済的利益を得ていた。この変更の結果、多額のフランチャイズ料が英・豪の大学の収入となった。

この変更がマレーシア政府の要請によって実行された点が重要である。マレーシアの民間の高等教育機関に対して自らの政府が課したこの政策変更は、英・豪の大学に経済的利益をもたらした。その結果、英・豪の大学はマレーシアとのネットワーク化を積極的に推進するようになった。

この政策変更は、直接的にはマレーシア国内の国家と民間との折衝の結果であるが、その背景には市場主義と経営主義を強調するグローバルな潮流があった。グローバル化の波の中で高等教育の品質管理、教育機関間の競争、および厳格な規則と評価活動が採用された。トランスナショナルな高等教育モデルは、半周辺の民間の中から創造された制度である。それは、マレーシアの民間の起業人が、市場の原理に従って自由な発想のもとに構築したものである。他方、国家は新自由主義的なグローバル化の波におされて、品質保証に関するグローバルなガイドラインの順守を通して、それを作った英米豪のプログラムの使用を民間に要請した。その結果、西洋英語国が経済的に支配しやすい環境を固定化する役割を果たした。

(2) 半周辺の増殖(周辺の半周辺化)と英語化の構図

マレーシア政府の方針により、3+0を行う際に自前のプログラムが使えなくなったが、民間セクターはそれでも戦略的に動いた。具体的には、マレーシアの民間高等教育機関の海外校(在ジャカルタ、北京、香港、バンコクなど)を活用し、2+1形式によって海

外校で2年間マレーシアの機関のプログラムを用いたコース終了後、単位移行を通して英豪の学位を取得する方途を見いだした。マレーシアの民間高等教育機関の自前のプログラムの使用は、マレーシア政府によって国内的には使用不可とされたが、英・豪の大学によって了承済みであったため、海外校では使用可能であったからである。

マレーシアの民間の高等教育モデルの本質はトランスナショナルな点にある。マレーシア・モデルにおいて高等教育が成立するための必要条件は、大学という組織ではなく、トランスナショナルなネットワークである。ネットワークは組み換えが自由であるので、中心と半周辺とのリンケージを、半周辺と周辺との関係において再生産することは比較的容易である。

さらに、後述するように、マレーシアの民間高等教育機関が自前の学位を授与する要請を受けると、国内的にはトランスナショナルな高等教育の提供者としての役割を卒業する。こうした国内の展開とは裏腹に、高等教育のマレーシア・モデルは途上国に模倣、技術移転を通して伝播している。これは、周辺の半周辺化を意味する。周辺を半周辺化して仲介的役割を移譲することによって、西洋英語国の経済的支配に有利なネットワークを拡大再生産した。これは英語化が進展する1つの重要な構図であると言える。

### (3) ナショナルな社会的文脈におけるグローバリズムとナショナリズムの対立の構図

本研究ではさらに、ポストコロニアル(ポスト複合)社会マレーシアにおける社会的ダイナミズムに焦点をあてた。すなわち、第1に、ブミ(主にマレー人)とノン・ブミ(主に華人)の間の対立・競合・調整の側面である。第2に、国家と民間の対立・競合・調整の側面であり、これは第1の側面とほぼ重複する。

国家の政策も民間の事業も、それぞれ異なる形でマレーシアのポストコロニアルな状況を反映している。まず、国家が行う公的教育のナショナリズムは、植民地主義の遺産である西洋化と英語使用に対抗して、ナショナル・アイデンティティの形成・維持・促進とマレー語・マレー文化の維持・促進を優先課題とした。他方、民間のノン・ブミが創造した高等教育は、ポストコロニアルのもう1つの特徴である市場におけるグローバル資本主義とそれに付随する英語化を推進した。民間は市場原理を駆使して、英語を媒介とする高等教育のネットワークを構築し、その結果グローバル資本主義における仲介的役割を果たしてきた。

こうした2つの正反対の方向性は、いずれもポストコロニアル(ポスト複合)社会における国家と市場の反応を示しており、英語化とマレーシアのマルチエスニシティの展開を考える上で重要な視点である。

### (4) ナショナルな社会的文脈におけるエスニック関係

既述の通り、国家が管理・運営する「公」の高等教育に対して、民間のアクターは代替制度として英語を使用言語とする民間の高等教育を創造し、その伝播は様々な波及効果を伴った。ナショナルな社会的文脈においては、エスニック関係をめぐる2つの動向に注目した。

#### 高等教育の英語化とエスニック・ディバイド

高等教育の民間化、すなわち英語化は、エスニック間の対立・競合・調整に影響を与えた。特に、エスニック関係にとって最も重要な文脈である教育の機会と就職の機会に深い影響を与えた。民間の高等教育機関において、ノン・ブミ(主に華人)の比率はブミ(主にマレー人)と比べて著しく高い。この不均衡な比率はエスニック関係の観点から見逃せない。高等教育の民間化、すなわち英語化は、エスニックな境界と言語的な境界を重ね合わせることによって、マレー人と非マレー人の格差を拡げ、マレー人にとって経済的に不利な要因として浮上した。(もちろん、過度な一般化は避けなければいけない。マレー人、華人、インド系のそれぞれは一枚岩ではなく、各々のエスニシティの中に、英語との関わりにおいて多様な幅がある。社会的階層、地域、世代、教育、家庭環境、交友ネットワークなどの社会言語的背景によって多様な状況を呈している。)

#### エスニック間の駆け引き

1995年には既存法である教育法、大学およびユニバーシティ・カレッジ法が改定され、さらには1996年に私立(民間)高等教育制度法、国立認定機構法、高等教育に関する国立協議会法施行されると、民間が創造した高等教育は国家の公式の制度に組み込まれた。民間が知恵と資源を動員して創出した高等教育モデルは、マレーシア社会経済にとっての必要性から、「もうひとつの高等教育」として国家による公的な承認を得る。同時に、国家とその政治的支配層による公式化への圧力が増大し、民間の高等教育は様々な規制と管理の対象となった。民間は活動の自由を大幅に失った。既に述べたように、国家と民間の関係は、ブミ(主にマレー人)とノン・ブミ(主に華人)との駆け引きの側面を持つため、エスニック関係と重複する局面が多い。

1996年私立(民間)高等教育法の施行時に、民間のカレッジのうち有力なものをユニバーシティ・カレッジ、さらには大学に昇格させることとした。しかし、昇格の条件として、英米豪などの海外の大学の学位取得につながる単位移行やトゥイニングなどのトランスナショナル・プログラムを段階的に廃止し、自前の学位課程を用意することが要請された。これは、民間の高等教育の成立基盤そのものに対する挑戦である。国家がマレーシア

産の学位の提供にこだわった背景に、マレー人の支配的領域である国家のナショナリズムがあった。

国家とは、この場合、主に文部省およびその後身の高等教育省を指す。官僚、国家公務員のほとんどはマレー人である。民間の高等教育が主に非マレー人の活動領域であるのに対して、国家はマレー人の活動領域である。従って、国家と民間の関係はエスニシティ間の調整・取引の側面を色濃く持つ。

第1に、民間の高等教育の国家による承認は、また別の意味でもエスニシティ間の取引であった。すなわち、それまではノン・ブミの領域であった民間の高等教育にブミ(マレー人)の進出が見られるようになった。2000年代半ば以降、民間の高等教育に参加するマレー人のスタッフの増加が目立った。政府・高等教育省による許認可をより円滑に進めるため、マレー人スタッフの採用が積極的に行われるようになった背景がある。第2に、これまでは主にノン・ブミの領域であった民間の高等教育機関においてブミ(マレー人)の学生が増加傾向にある。政府公共サービス局は、2000年代半ばから公費支給生を民間の高等教育機関にも送るようになった。以前は直接アメリカの大学に派遣したり MARA のような国立大学に割り当てていたことを鑑みると、大きな変化である。加えて、第3に、いくつかの民間の高等教育機関ではブミの一般学生を対象に授業料の減額が始まった。それ自体は、ブミの階層上昇移動を助けたり、エスニック・ディバイドを改善させる効果を持つであろう。しかしながら、教育のブミブトラ優遇措置に対抗する形で始まった民間の高等教育における同様のエスニック措置は、ある意味では、出発点への逆戻りでもある。

第4に、民間の機関における経済的な余裕のあるマレー・ミドルクラスの学生の増加は、今後のマレー人の役割をどう変化させるのであろうか。国家と市場の関係の中でマレーシアのマルチエスニシティの行方を考えていく上で見逃せない課題である。

#### (5) マレーシアの仲介的位置 エスニックな資源からナショナルな資源へ

英語化を促進するグローバル資本主義における半周辺性と多文化・多言語資本を駆使して英語を媒介とする高等教育のネットワーク形成で積極的に仲介的役割を演じてきたのは、マレーシア華人の起業家である。華人は、英植民地時代、ヨーロッパ系企業の仲介者(ミドルマン)としての役割を与えられていた。グローバル市場化したポストコロニアルな社会においては、華人の伝統的な役割が再構築された。

現代の高等教育の英語化の中で、マレー人も国家の領域を離れ、市場経済に積極的に参加するようになった。民間の高等教育機関においてマレー人の姿が目立つようになった。

この過程の中で、マレーシアのマルチエスニシティを資源とした活動に従事するため、マレー人もこのような仲介的役割を学習するようになった。マレー人の領域としての国家、華人の領域としての市場という伝統的な構図を脱する1つの道筋になりえると言えよう。

#### (6) 本研究の貢献

最後に、本研究のオリジナリティ、学術的・応用的価値、将来性についてまとめておきたい。

##### 研究主題の独創性

社会学において未開拓なテーマかつ独創的な着想である。特に、英語化を半周辺の制度の再生産という視点からとらえ直すことは、グローバル化がもたらす新しい環境の下で能動的に生きる人間と社会のあり方を理解する上で重要である。アジアにおける英語化の展開に伴い、従来の支配の構図が変形し、国際社会に新たな権力構造が生じる様子を分析する視点は従来欠けていた。

##### 研究成果の学術的価値、応用的価値

国際的技術移転、グローバル化と権力、エスニシティとナショナリズム等の分野に新たな視点を提供できよう。応用的価値としては、国際化を迫られている日本の大学の方向性を考える上で有益な示唆が得られるはずである。アジアを中心にネットワーク化が進む英語圏の高等教育の展開を扱う本研究の成果を基に、示唆に富む政策的提言が期待できるはずである。

##### 研究の将来性

英語は新たな世界秩序を考える変数として重要度を増すであろう。英語支配論や国際英語の多様性を祝福する言語学的楽観主義の限界を超えなければいけない。本研究が示すように、英語が社会や権力構造の再編成に及ぼす影響を社会的に実証分析することの意味は評価されよう。

#### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計1件)

Kosaku YOSHINO, 'The invention of transnational higher education in Malaysia: a perspective on Englishizing Asia', Keynote lecture, Annual conference of the Japan Association for Malaysia Studies, 14 December 2014, held at the University of Tokyo, Hongo Campus.

〔図書〕(計1件)

吉野 耕作『英語化するアジア トランスナショナルな高等教育モデルとその波及』名古屋大学出版会、2014、234。

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉野 耕作 (YOSHINO, Kosaku)  
上智大学・総合人間科学部・教授  
研究者番号：50192810